

★図書館用語の基礎知識★

『第44回 インターネット予約』

貸出券のパスワードを利用して、インターネット予約をしましょう。

図書館カウンターで貸出券の仮パスワードを受け取っていただく（貸出券と身分証明書をお持ち下さい）、図書館ホームページ・携帯サイトでいつでも資料の予約ができます。

まだお試してない方は、ぜひお試しください。

仮パスワードをご自身で決めた本パスワードへ変更後、ご利用いただけます。

お忘れの場合は、再発行いたします。お気軽にお尋ねください。

<http://www.library.city.nagoya.jp/>



貸出券番号とパスワードでマイページにログイン⇒検索⇒予約

雑誌の破り取り、新刊雑誌の無断持ち出しが発生しています。資料は、一人だけのものではありません。丁寧にご利用下さい。

★★★★館内での質問から／資料探しのお手伝いをします！★★★★

Q. 一般の人向けに薬の製造過程がわかる資料はありますか？

A. 例えば、次のような資料はいかがでしょう。

- ①『モノづくり解体新書 6の巻』（日刊工業新聞社）1994年
身近な物がどのように作られているかをイラストでやさしく紹介した雑学シリーズです。66p～69pに錠剤の製造法が紹介されています。
同じく『4の巻』では、仁丹（じんたん）が紹介されています。
- ②『モノができる仕組み事典』（成美堂出版）2007年
日用品から新幹線や旅客機まで50種の製造過程を現場写真で紹介しています。174p～179pに錠剤が載っています。
- ③『日本製薬工業協会ホームページ』<http://www.jpma.or.jp/>
研究開発について説明した「くすりについて」、見学できる工場を紹介した「小中学生のためのくすり情報」などが参考になります。



編集後記 今夏は昨年より過ごしやすく感じます。夏休み期間は1年ぶりで利用される方も含め通常を上回る方が来館されます。貸出中の本が多く十分に本を案内できず申し訳なく思います。（鈴木）

発行・名古屋市山田図書館 〒452-0815 名古屋市中区八筋町358-2

電話 052-503-5340 ファクシミリ 052-503-5341

この用紙は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

山田図書館だより

2011年9月1日発行



みんなのしおり

第51号 手紙もいいなあ9月号

☆巻頭エッセイ☆

～ ラブ・レター ～

今月の本
闘病記を読む

守山図書館・司書 足立 亜希

私は小さい頃から手紙が好き。小さな頃は返事が欲しくて書いた手紙も、今では手紙を書いて送るという行為自体が好きだ。レターセットやハガキを選び、書式を気にせずどんどん書いて、かわいい切手を貼る。出かけた先でポストを探して、無事に届きますように☆と願いつつ投函。その一連の動作が私を心地よくさせる。

大学時代には、あまりに頻繁に手紙を出していたので、私の名前を「よく手紙を送ってくる子」と認識しているご家族もいたらしい。「私も手紙が欲しい!」と友人の妹が言い出し、文通を始めたのもその頃。彼女と会ったのは1度きりで、10年近くたった今も手紙をやりとりしている。

現存する最古の私宛の手紙は、亡くなる直前の祖母からの手紙。私の小学校入学のお祝いと、両親の言うことをよく聞いて、兄や弟と仲良くするようにと書かれていた。

その手紙は伯母が代筆したものであったと私が知ったのは、ずいぶん経ってからのことだった。手紙の日付の2、3日後に祖母は亡くなった。祖母の最後の想いがつまっていると感じていた私は何度も読み返した。今振り返ってみれば、それがおばあちゃんの願いだからと信じて、兄弟と仲良くしよう、両親の言うことを聞こうと努めていたのかもしれない。最近手紙を読み返す必要がなくなったのも、私が成長した証だろうか。

手紙はただの紙きれだが、そこには様々な想いがつづられ人の心をゆさぶる。

「手紙」で思い出したオススメ本を2冊

- ・ ラブレター 岩井俊二／著 角川書店
- ・ 絵封筒をおくろう きたむらさとし／[編] 著 文化出版局

§ 31歳、肺がんが見つかる。余命、2年。

『31歳ガン漂流』（ポプラ社）奥山 貴宏／著

『32歳ガン漂流エヴォリューション』『33歳ガン漂流ラスト・イグジット』（牧野出版）

31歳で肺がんにより余命2年を宣告された映画やPCを得意としたライターが、33歳で亡くなる直前まで書き続けた闘病日記。

著者は山形県に開業医の実家がありながら、東京の空気・映画館・友人との付き合い・ツーリング・雑誌記事の執筆を優先させるために入退院を繰り返しながらもマンションでの1人暮らしを選択し、「物書きはこの世の中で唯一自由な魂を持った職業なんだ」という先輩作家の言葉に励まされ、友人や両親の手厚い支援を受けながら仕事を続けます。ホスピスを拒否し、PCの前で吐しゃ物を詰まらせて死ぬのも本望で、可能な限りギリギリ生きるところからしか作品は生まれない、という決意に心動かれます。しかし、闘病中は栄養不足ではなかったかと気になります。

今月の本

闘病記を読む

病気を患った人やその家族がまとめた病気との闘いの記録が闘病記です。病気への不安・医師の言葉・治療過程・費用の問題などが記されていて、病気への対処法を考えるにあたり参考になります。

病気の問題はできるだけ元気なうちに考えておきたいものですね。

※9/22（木）までの予定で関連資料を展示しています。



§ 脳梗塞になったお父さんと家族の記録

『お父さんが倒れました』

川嶋 光／著（プレジデント社）

著者は1948年生まれのフリー・ライター。40歳のころ激しい頭痛を体験し、50代以降は体の冷えに悩まされるなど危険信号が出ていた中、突然の脳梗塞に襲われます。幸い家族の迅速な行動とかかりつけ医の適切な指示で脳神経外科に運ばれ、心臓バイパス手術とリハビリで仕事に復帰できるまで回復します。

セカンドオピニオンについて言い出す難しさ、家族の時々々の思い、医療費や交通費などの問題が率直に記されています。著者は民間医療保険に加入していませんでしたが、高額療養費制度が大きな助けとなったようです。

§ 介護の日々

『リハビリ・ダンディ』

野坂 暁子／著（中央公論新社）

作家・野坂昭如（のさかあきゆき）の妻による6年間の介護報告。著者は自分の仕事を持ちながらも、長年の飲酒と多忙が重なり脳梗塞に倒れ、右半身のマヒと発声障害が残った夫の回復を目指して懸命に支えます。

毎食野菜たっぷりのメニューを準備し、のどに詰まらせないよう気を使う。リハビリは甘やかさない。少しでも夫にいい明日が来て欲しいという思いを感じます。

§ 自立生活への意志

『こんな夜更けにバナナかよ』

渡辺 一史／著（北海道新聞社）

舞台は札幌。小学校高学年で筋ジストロフィーと診断され、国立療養所や福祉施設での治療生活を余儀なくされながらも、保護の対象でしかないという障害者像を打ち破り、少しでも健常者に近い障害者生活の実現を目指してケア付き住宅での生活を選択した鹿野靖明（しかのやすあき）さんと、長年支援を続けた大勢のボランティアとの交流を描いた物語。

人工呼吸器を付け、寝返りもできない鹿野さんは痰の吸引等24時間介護が必須でしたが、全てを公的給付でまかなえず学生を中心とするボランティアに助けられていました。しかし、ここは通常と異なり、患者がワガママを言い、若者を教育し、またボランティア同士が触発され、生き方や福祉のあり方を考える場となっていました。

鹿野さんは亡くなりましたが、生きるのをあきらめず、人との関わりをあきらめない姿勢に見習いたいものです。

§ 新聞記者、がんと闘う

『生きる者の記録 佐藤健』

佐藤 健／著（毎日新聞社）

定年を目前にした社会部記者が末期の原発性肝臓がんに侵されていることが判明します。本書は最後の仕事に自分の病状の報告を選んだ記者によるルポルタージュ。

痛みの表現の難しさ、死への恐れ、医師や看護師の言葉遣いへの疑問など、時々々の患者の思いが伝わってきます。新聞記事への読者の反響も載っています。

参考資料～もっと知りたい方へ～

* 『闘病記文庫入門』

石井保志／著（日本図書館協会）

* 『病気になった時に読むがん闘病記読書案内』（三省堂）

闘病記専門古書店パラメディカ／編

§ 次男、父も母も介護する

『ひとり介護』

岡山 徹／著（ダイヤモンド社）

当初より妻との別居による結婚生活を続ける男性が担った両親の介護記録です。著者はあまり余裕のない経済状況の中、胆管がんの手術をした母と脳梗塞の後遺症を持つ父の面倒をみながら仕事を続けます。介護の日々と両親の死を通じて、一家をめぐる記憶も描かれています。

§ 夫にささげた有機純米酒

『さいごの約束』

坂本 敬子／著（文藝春秋）

45歳で食道がんが見つかり、余命約1年を告げられた茨城県にある造り酒屋の6代目当主の妻による闘病の記。夫を救いたい一心で、少しでも可能性のある治療法を探してはいくつもの病院を訪れ積極的に様々な治療を試みますが、2年ほどで亡くなります。

著者は7代目を引き継ぎ、夫が亡くなる前に作り始めていた有機米による酒と梅酒づくりに力を注ぐことを決意します。

§ 絶望の淵からはい上がる

『事黙なる巨人』

多田 富雄／著（集英社）

著名な免疫学者が旅先で脳梗塞となり緊急入院。右半身のマヒと言語・嚥下障害という重い後遺症に苦しみます。

リハビリに励みますが、死滅した神経細胞は再生せず、体は以前とは程遠い状況となります。しかし、次第に昔の回復を目指すことなく、自分の中に新しい人間が生まれつつあることを感じて積極的に生を楽しもうとします。勇気づけられます。

山田図書館クロスワードパズル

(11年9月号おまけ)



正解は次号をご覧ください。

1 E	2	3	4	5
6 A				
7				
		8	9 C	
10 B		D		

A	B	C	D	E	C
---	---	---	---	---	---

【タテのかぎ】

1. 奈良にある大仏で有名な寺院。
「〇〇〇〇〇」
2. 浅田次郎の小説。清朝末期が舞台。
『蒼穹の〇〇〇』
3. 「このカードは日本の全ての店で使えますか?」「いえ、グループ〇〇〇〇〇の50万店をご利用いただけます」
4. ポジ・フィルムでない写真フィルム。「〇〇・フィルム」
5. 北海道北部の島。礼文島の隣。
「〇〇〇〇〇」
9. 島崎藤村『夜明け前』の冒頭。
「〇〇路はすべて山の中である」

【ヨコのかぎ】

1. コロンブスの新大陸発見に大きな影響を与えたイタリアの地理学者。「〇〇〇〇〇」
6. 備長炭の原料となる和歌山の県木。「〇〇〇〇〇」
7. 「体がなんとなく〇〇〇〇ので、早く帰ってもよろしいでしょうか?」「まあ、我慢してください」
8. ふさわしいこと。ぴったりのこと。「〇〇〇ウ」
10. 自信を失うこと。
「〇〇〇〇〇〇シツ」

リ	□	セ	イ	ゼ
ン		カ		ン
タ	ア	イ	ナ	イ
□		イ	カ	
ウ	ル	チ	マ	イ

【8月号のこたえ】

ローカルセン

おすすめ本の投稿・ご意見・展示テーマ

お名前 (掲載します。 ペンネーム可)	
★本の題名 ★本への思い など	
ご連絡先 (実名の場合、 必ずご記入ください)	電話番号など

★本の紹介・「しおり」のご感想・展示スペースの企画案など、ご自由にお書きください。

★図書館だよりを名古屋市図書館ホームページに掲載する場合は、いただいた投稿もホームページに掲載することがあります(了解なく実名を出すことはありません)。予めご了承ください。

職員にお渡し下さるか、FAXで送信下さるか、
館内の応募箱にお入れ下さい

HP用